

# 声 Voice

## 戦争の加害の歴史を学ぶ旅

無職 山本 紀子

(兵庫県 60)

8月13日から8日間、「南京・桂林フィールドワーク」に参加。日中戦争の傷痕を学びました。前半は南京事件の現場に立つ「南京大虐殺記念館」の追悼集会に参加。また別の記念館や碑など巡り、虐殺を生きのびた「幸存者」から「家を焼かれ、3歳の弟の亡きながら人間の形をなさなかった」という生々しい証言を聞きました。大量の遺骨が発掘された跡地や、数多くの遺体が沈んでいたという揚子江も自分で見て、虐殺という歴史がようやく目の前に立ち上がってきました。

後半は、桂林で繰り広げられた、

日本軍による大陸打通作戦の激戦跡地やトーチカ(防衛陣地)、慰安所安婦」だった母と日本兵との間に生まれた息子さんが、「昔の日本人がしたことは、あなた方と関係はない。日本軍に苦しんだのは私一人ではない」と話しました。私たちと無関係なのかと、その言葉の重みに胸が苦しくなりました。「日本鬼子の子」とののしられた人生をどう受け止めたらいいのでしょうか。

戦争の加害の歴史を学び、真実を探究すること、この経験を誰にどう伝えるかが私の宿題になりました。